

## 第2次あま市総合計画策定市民会議（第3回）会議録要旨

日時 令和2年12月13日(日)  
午前9時30分から午前11時30分まで  
場所 あま市役所本庁舎2階 大ホール

### 1 出席者等

出席者等（委員） 23名  
（事務局） 5名  
（コンサルタント） 5名

### 2 会長あいさつ

開会にあたり、会長よりあいさつが行われた。

### 3 本日の進め方説明（コンサルタント）

本日の進め方などについて、以下のとおり説明。

- ・市民会議2回目のテーマは、「魅力を活かした あま市の将来を考えよう！」である。
- ・第2回で出していたいただいた、あま市の魅力と活用方法をもとに、誰がどのように実施して、どのような街になるかについて話し合い、まとめていただき、発表していただく。
- ・今回は、最後に各グループの発表を聞いて、良かったグループへの投票を行っていただく。
- ・第3回の説明に入る前に、第2回で出されたアイデアを5ページと6ページにまとめているので、ご覧いただきたい。
- ・それでは、本日のグループワークについて、次のとおり進める。
  - ①第2回でまとめた「魅力と活用方法」から、どれを活かすかをポストイットに記載する。
  - ②選んだ「魅力と活用方法」を「誰が」行うかを考えて、ポストイットに記載する。
  - ③あま市のまちづくりに対して「何をする」と実現できるのかを考えて、ポストイットに記載する。
  - ④記載した①～③を行うことにより、どのようなまちになるのか、どんな良いことがあるかをポストイットに記載する。

### 4 グループワークの実施（委員及びコンサルタント）

各グループにてグループワークを実施。

## 5 発表内容

### Aグループ

#### 【作成ボード】

タイトル：あま魂

アイデア	どのような魅力を活かすか	誰が	どのようなことを実施するか	どのような街になるか
七宝焼に関する課題の究明	・伝統、七宝焼を活かす。	・行政（学校） ・学生（高校生、大学生） ・市民 ・七宝焼職人	・部活、授業を通じて経済の勉強をしながら、七宝焼を発信する。 ・商品開発部、マーケティング部を立ち上げ、研究等を実践的に行う。	・七宝焼の存在が若い人も自分ごとになる。 ・担い手としての興味につながる。
	<b>■アイデアのねらい</b> 七宝焼を題材とし、学校の部活や授業を通じて経済の勉強を行い、七宝焼の魅力を発信するとともに、商品開発部やマーケティング部を立ち上げ、研究等を実践的に行うことにより、なぜ七宝焼は浸透していないかを明確にする。あわせて、学生などの若い人が授業を通じて七宝焼にふれることにより、七宝焼を自分ごととして認識し、担い手としての興味につながることをねらいとする。			

#### 【発表内容】

- ・タイトルはあま魂である。題材としては、七宝焼を活用したまちづくりである。
- ・誰が行うかということであるが、七宝職人、学生、市民と並んでいるが、具体的には教育を通して勉強しながら七宝焼とはどのようなものなのかを明らかにしたいと思った。
- ・七宝焼は市の魅力ですとあるが、では実際にどのように活かせばよいかということを実行できていないということがあると思う。そのために、例えば商品開発部やマーケティング部というように、学生が部活や授業を通して、市場調査やどのような商品を作ったら良いかや発信したら良いかを明らかにすると七宝焼が広がっていくと思い、自分たちが欲しい・売りたい七宝焼が出来上がり、学生と職人が一緒になり発信することにつながる考えた。
- ・そして、どのような街になるかについては、七宝焼の存在が自分ごとになり、心から魂から七宝焼はあま市の魅力だと、若い人も自分の言葉で話せるようになって欲しい。

## Bグループ

### 【作成ボード】

タイトル：特産品で心を一つに!!

アイデア	どのような魅力を活かすか	誰が	どのようなことを実施するか	どのような街になるか
特産品などを活かし 市民のつながりを醸成	・あま市の特産品と歴史・文化遺産を活かす。	・市長と市民	・あまり使われていない市の施設を活用する。 ・学生が調べ学習した内容を展示し、PRする。 ・特産品を販売する。 ・料理教室を開催する。	・あま市民の心が一つになって、キラッと光る。
	■アイデアのねらい あま市の特産品と歴史・文化遺産を活用し、市長を中心に市民が発信するとともに、使われていない市の施設において、学生による学習内容の展示、特産品の販売、特産物を使用した料理教室を開催する。これにより、あま市民の心のつながりが強くなることをねらいとする。			

### 【発表内容】

- ・タイトルは、特産品で心を一つに!!である。あま市の特産品と歴史・文化遺産を活かすことに着目した。あま市の特産品として思いつくのは、七宝焼が多いと思うし、多くの特産品があるが、あま市イコール何とかというものがあると心が一つになっていくと考えた。
- ・そのために誰が行うということであるが、市長さんが引っ張って、市民が全員ついていくという体制が良いと考えた。
- ・どのようなことを実施するかについては、あまり使用されていない市の施設を活用し、中高生があま市について調べたことを展示することや特産物の販売を行い地産地消につなげること、地元野菜を使用した料理教室の開催などを考えた。そして、あま市民の心が一つなり、きらっと光ったあま市になると良いと考えた。

## Cグループ

### 【作成ボード】

タイトル：スターバックス アートヴィレッジ店

アイデア	どのような魅力を活かすか	誰が	どのようなことを実施するか	どのような街になるか
七宝焼を活かした魅力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>七宝焼を活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民を中心に多様な主体が連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あま市のカフェの食器として利用する。</li> <li>七宝焼にちなんだスイーツをつくる。</li> <li>アートヴィレッジへ、スターバックスコーヒーを誘致する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アートヴィレッジに人が集まる。</li> <li>「あま市にもスタバが!!」と強みになる。</li> <li>七宝焼とのコラボで七宝焼も知ってもらえる。</li> <li>地元で買いに行きやすい。</li> </ul>
	<p>■アイデアのねらい 七宝焼を活かし、市民を中心に多様な主体が連携を行い、「カフェの食器として利用」、「七宝焼に関連したスイーツを創る」、「アートヴィレッジへ、スターバックスコーヒーを誘致」などを実施する。これにより、アートヴィレッジの集客力が向上するとともに、あま市の魅力の向上につながることをねらいとする。</p>			

### 【発表内容】

- 七宝焼の魅力を活かしたいと考えた。
- そして、誰がということでは、市民が中心となり、そこへ学生のアイデアや行政の支援、企業の協力、職人の協力が必要と考えた。
- 活用方法については、カフェの食器として利用していただくことや、七宝焼にちなみ七つの魅力を出してスイーツを創ることを考えました。
- どのような街になるかということで、スターバックスコーヒーをアートヴィレッジの中に建てることにより、スターバックスコーヒーで七宝焼の食器を使った人が興味を持った時に、アートヴィレッジに七宝焼のことが多く展示されている所もあるので、人が集まりやすくなると思った。そして、地元の人も買いに行きやすいと考えた。

## Dグループ

タイトル：あま市 100%

### 【作成ボード】

アイデア	どのような魅力を活かすか	誰が	どのようなことを実施するか	どのような街になるか
あま市の魅力を多様な方法でPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>イルミネーション、ほどよい田舎、特産物、みそ、七宝焼、観光資源などの魅力をPRする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗、職人、一般市民、学校などによる活動団体（運営事務局）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の名所を回るスタンプラリーを実施する。</li> <li>食や七宝焼イベントと連携する。</li> <li>Run&amp;walkアプリを開発する。</li> <li>木田駅から文化会館までをイルミネーションで飾る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の人があま市を好きになる。</li> <li>市外の人にあま市を知ってもらう。</li> <li>将来的には「利便性」や「子育て支援」もアピールして、あま市に住みたくなる。</li> </ul>
	<p><b>■アイデアのねらい</b></p> <p>イルミネーション、ほどよい田舎、特産物、みそ、七宝焼、観光資源などの魅力をPRするために、店舗、職人、一般市民、学校などが参加する活動団体（運営事務局）が、「市内の名所を回るスタンプラリーの実施」、「食や七宝焼イベントとも連携」、「Run&amp;walk アプリを開発」、「木田駅から文化会館までをイルミネーションで飾る」などを実施する。これにより、市民があま市を好きになるとともに、市外の人にあま市を認知して頂ける。さらに、将来的には「利便性」や「子育て支援」もPRすることにより、あま市に住みたくなる人が増えることをねらいとする。</p>			

### 【発表内容】

- あま市の魅力を100%詰め込める取り組みを考えた。
- 前回のワークショップであま市の魅力を考えて、様々な特産物、七宝味噌や七宝焼、観光資源も寺院や歴史上スポットがあるという魅力が挙げられた。これらをPRする取り組みとして、スタンプラリーを軸として挙げている。このアイデアであるが、委員が高校の授業であま市の地域活性化計画を考えていたということで拝借させていただいた。
- 誰がということであるが、キーとなるのは運営事務局と考えている。今、あま市の中にも観光や職人さんを支援するなどの様々な団体があるということであるが、それらを取りまとめて運営する事務局が必要と考えた。参加する方としては、有志の方や店舗の方などを想定している。そして、不可欠なところとして、市の協力も必要と考えている。スタンプラリーを日常的に活動していくことに加えて、イベントにも活用できると考えており、その時は店舗の方にも参加頂くことを考える。それから例えば、お寺なども活用することを考えているが、現在は紹介文が難しいので、小中学生にも分かりやすいように、自分たちで調べて説明する文書を掲示するなど、子どもの家学習にも活用できると思っている。

- ・スタンプラリーについては、日常的には、お店や様々な施設をポイントとしておおくが、現在はコロナで運動不足になっているかもしれないが、ランニングやウォーキングのアプリと関連させることで、運動したい方にも参加していただくことや、冬にはイルミネーションと関連させる、人通りが増えることで、車で動く人が多いと思うが、防犯の効果にもつながると思う。また、スタンプラリーの活用方法としてはゴミ拾いのキャンペーンや健康ポイントと関連させる活用もできると考えた。どのような街になるかという、住んでいる私たちがあま市を好きになっていく魅力を知り、住み続けたいと思えるようになると良いのと、イベントなどで市外の人があま市に来ていただけるようになることを期待する。そして、これらの魅力のみではなく、名古屋駅に近い利便性や子育て支援も充実していることをアピールしていくことにより、あま市に住み続けたいと思える街になり人口が増加して、継続的に発展していくまちづくりができると考えた。

## 6 投票の実施

各グループの発表を聞いて、良かったグループへの投票を実施。

## 7 市長あいさつ

閉会にあたり、市長よりあいさつが行われた。

## 8 閉会あいさつ（企画政策課長）・写真撮影等

これまでの3回の市民会議で、皆様からいただいたご意見については、市民会議会長の小林委員において、年明け1月8日（金）に開催される「総合計画審議会」へ提言書という形で提出していただく予定としている。

《集合写真撮影後、順次解散》